

平成30年度第2回南部町教育協働みらい会議 議事録

開催日時	平成31年2月15日(水) 午後1時35分～午後3時10分
開催場所	法勝寺庁舎 2階 会議室
出席者	陶山町長、井上教育委員、板教育委員、瀬田教育委員、 畠教育委員 永江教育長
事務局	松田副町長、大塚総務課長、板持教育次長、安達総務・学校教育課長
書記	総務・学校教育課 渡邊
欠席者	なし
傍聴人	なし

	【開会 午後1時35分】
	【1. 互礼・開会】
	【2. あいさつ】
陶山町長	教育を取り巻く環境は一人ひとりの違いをどう受け止め、個性をどう伸ばしていくかの大きな課題である。親の暴力で命を落とす子どもや、親を殺してしまう子どもなど問題も深刻である。こうした現実をどう受け止め、どのように教育に落とし込んでいくか、今、何をし、未来をどう考えていくかをじっくり考え、意見交換したい。
	【3. 意見交換】
松田副町長	まず、青年議会について話し合いたい。 1月26日の青年議会は高校生サークル、青年団、南部町に移住した青年など計13名が出席し自分で考えた事を立派に話した。自分がこれまで経験してきたことや、移り住んで起業した体験をもとに色々考えた提案や質問だった。課長会では、各課がこの青年議会の提案を生かしていくことになったが、教育委員会ではどのような感想もったか、今後どのようにすべきかお聞きしたい。
板委員	小中学校でまち未来科が始まり、高校生サークル、青年団と繋がったものだが、今回の青年議会はよく準備していたと思う。ただ、質疑応答で10分というのは、短かった。行政として、今回の提案にどう取り組むのかを具体的に教えてほしい。
松田副町長	課長会で整理をし、議論をしながら実行していくこととしている。具体的には町長との給食や国際交流、我が町でのワーキングホリデー、ラインスタンプなど、できるものから実施していきたい。課題としては、町外に出た若者とどう繋がっていくか、町の情報をどう伝え、どう興味を持ってもらうか、ということ。
大塚総務課長	避難所についての提案もあったが、今年の3月13日に鳥取県聴覚障がい協会と災害時のボランティア派遣等で協定を結ぶようになった。この時には、青年議会で提案してくれた高校生にも来てもらう予定にしている。やはり、自分で提案したことが実現することは意味があると思う。
陶山町長	災害時に情報を提供する不十分さを感じた。理論だった災害対策があまりできていなかった。青年議会後、若者たちから災害時にSNSを使って社会貢献したい、との話が

	あった。その時、災害に対してSNSは有効か、との話になり、情報を流しても、それを受け止める使用者が正しい情報かどうか、きちんと判断できるようにならなければいけない、と思った。時代をしっかりと見定め、若い世代が何を求めているか、向き合っていかなければいけない。
井上委員	青年議会はどのような形で広報されるのか。
松田副町長	議会の事業なので、議会広報に載ると思う。
永江教育長	青年議会が開催できたことは、それぞれの立場で一つの前進と受け止めていいと思う。しかし、青年議会を実施したこと自体で達成としてはいけない。教育行政としては、まち未来科が高校生サークルや青年団の立ち上げ、そして、青年議会に至った経過をまずはしっかりと振り返りをしたい。また、町長部局は青年達の意見を町づくりに繋げることだと思う。青年議員の一人は町長さんと話がしたい、と言っていた。柱を決めて、若者の意見を吸い上げ、実現していく仕掛けを考えたいほうが良い。
井上委員	青年議会で高校生や青年団が発言をしたということで終わりではなく、議会はこれをどうしようとしているかをじっくり考えてほしい。そうでなければ、長続きしない。
陶山町長	青年議員の皆さんに意見を聞いたところ、議員となって町を変えたいといった意見はなかった。それより、自分達の意見を話せる場所がない、ということだと思った。
松田副町長	議員の皆さんは、青年たちに議会はどんなことをしているかと興味を持ってもらいたいと思っているのではないか。
陶山町長	今の状況だと、今後子どもたちは、新聞を取らず、テレビも見ず、自分の興味のある情報だけ受け入れるような社会になっていくと思う。多様な意見があることについて、考えていける子どもたちにしなければいけない。孤立化をし、何日も人と会話をしない社会になっていくことを防がなければいけない。
瀬田委員	青年議会に出るために、色々勉強したと思うが、町の議員さんと意見を交わす場はあったのか。青年議員が考えている理想像をどう具現化するか、実は議員のみなさんに議場で話してもらいたいと思っているのではないか。
陶山町長	青年議員一人ひとりに、担当議員さんがつき指導したと聞いている。
畠委員	青年が議会に出て話すのも大切な事だが、青年からの意見を議員のみなさんが聞いて、議員のみなさんが討議していくのが大事ではないか。
陶山町長	内容について語りあう会を、議場ではなくこのような会議形式で実施したほうが、じっくり議論できるのではないか。
永江教育長	青年議会をすることが目的ではなく、色々な意見を吸い上げて、議員のみなさんと議論することが大切だと思う。
井上委員	保育園に年2回いくが、保育士がいなくて、1歳、2歳が預かれないというが、なぜこのようなことになるのか。
松田副町長	子どもの数は年々減っているが、未満児を保育園に入れたい人が増えている。ただ、子どもの年齢に合わせて、担当する保育士の人数が決まっていて、未満児の人数が多くなれば、保育士の必要数が足りなくなる。そのため、小規模保育園を開園する。
井上委員	保護者は今を見ている。部屋はあるが、保育士がいない。このようなことがあってはならない。
畠委員	母が働きたくても働けないのは辛い。将来を考えるとパートでないと働けなくなる。
板委員	手狭な既存の施設を使って小規模保育をするより、つくし保育園の空き部屋を使用

	できないか。園庭もあるし、そのほうが良いと思う。
陶山町長	先々子どもはどんどん少なくなっていく、保育需要は小さくなっていく。直近の出生率は、南部町は1.2人。合計特殊出生率も県下最低になりそうだ。小学校に入学する時には、転入があっただいたい同じ人数になるから良いといった考えは危ない。その中で保育園をどのようにしていくか、子ども子育て会議の中でも、統合について考えていかなければいけない。つくし保育園も、古くて狭い。
畠委員	今がちょうど過渡期かもしれない。0歳児を預けるところがないのが、一番の問題。ここを解決すれば、出生率も上がると思う。
陶山町長	夫婦が共働きをする環境が良いと出生率も高いとのデータも出ている。南部町は共働きをしていないかといえばそうでもない。
松田副町長	次にグローバル人材について考えていきたい。青年議会でもグローバル化について意見が出ていたがどう考えるか。町ではハンリム大学の学生が町内でホームステイをしたり、高校生サークルが平成29年度は北朝鮮の関係で東北となったが、その時以外は韓国に行っている。その他、外国語のスピーチを実施したり、ハンリム大学の学生と小学生が交流もしている。
永江教育長	韓国に行く際には、高校生は何度も研修会を実施し、帰国後は町の色々な活動に参加している。しかし、韓国との国際情勢が不安定。南部町が発足した当初は、南部中学校は修学旅行で韓国に行っていたが、国同士の安定感がなく中止した。
畠委員	韓国は近いので行くには良いところだが、反日感情が出てきている。
松田副町長	ハンリム大学とは交流が続いているので、良い関係ができています。それ以外ではなかなかそうはならない。
永江教育長	外国に行けば、グローバルな人材育成となるかというところではない。中学生が京都大学に行って最先端技術を学んだ。小学生でも何かを実施し、高校生で海外へといった積み上げをして、トータルでグローバル人材を育成していくという形が良い。
松田副町長	小学校で英語が始まっているから、海外へ興味を持つことは、当たり前になっているが、小学生、中学生、高校生と、どう組み立てていくかが問題だと思う。
永江教育長	中学校ではイングリッシュオンリーの授業も見通されている。小学生の英語も始まっているので、2年に1回は英語圏に行くといった方向もある。
大塚総務課長	英語圏で近くであれば香港もある。
井上委員	自分の世界が広がれば広がるほど、グローバル化が進めば進むほど、町にはなかなか帰ってこない。帰ってきたら、最高なのだが。
畠委員	高校生は韓国には希望者がいったのか。
永江教育長	希望者が行った。海外に出ることによって、それまで当たり前だったことが、そうではないことがよくわかるようだ。
井上委員	京都大学に行った中学生は考え方が違ってきたと聞いた。最先端の技術を見て、大学のキャンパスを歩くことによって、変わってくると思う。
大塚総務課長	グローバル人材は、子どもたちだけではなく、社会教育の範疇でもある。インバウンドとといったことも考えなければいけない。
松田副町長	外国から南部町に来てもらう取り組みもしていきたいし、子ども達との交流も実施したい。

